



みたに わたる
三谷 渡議員

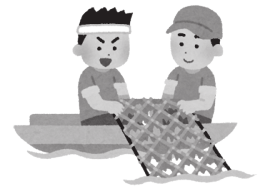
おいしい海産物がとれる町を目指した取り組みを

議員 美味しい海産物がとれる町を目指した、資源確保の取り組みをたずねる。

市長 白石島と高島間の海域を漁業資源供給基地とする海洋牧場構想を実施しており、魚礁の設置や藻場の造成等による漁場環境の整備、音響馴致、放流等によって魚類の定着や適正な漁場及び資源管理を行っている。

議員 魚介類の育成場所としてアマモ場の再生の現状は。

市長 神島外浦から高島沿岸を中心に再生に取り組んでいる。県、笠岡地区漁業連絡協議会などと美しく豊かな海づくりに関する協定も締結した。今後も関係団体と連携して取り組んでいく。



公立高校存続に向けたオール笠岡での取り組みを

議員 今年度は笠岡商業高校の定員が40名減、来年度は笠岡工業高校の定員が40名減と聞いた。本市の現状認識と今後の対応、取り組みをたずねる。

市長 昨年度は定員減を実施しないよう要望書を県知事宛に提出した。また、県境に位置していることから、県外からの学区外出場者枠の設置も要望した。今後も継続的に高等教育の施設充実を要望していく。

議員 公立高校存続に向けた、オール笠岡での取り組みが必要では。

市長 しっかりとその必要性をアピールし、地元の県議の先生方のお力も借りつつ、維持拡大に努めていく。



おくのやすひさ
奥野泰久議員

北木島診療所の医師確保を

議員 北木島診療所は現在、医師一名体制で運営されている。医師の確保について、状況をたずねる。

市長 北木島診療所については、昨年末から残念ながら、やむなく診療日数を縮小している。その後の医師の補充は、昨今の医師不足から目処が立たない困難な状況にある。笠岡市としては、今後も医師の確保に向け努力する。

また、島で安心して生活をするためにも、(以前に)奥野議員から御指摘の救急搬送する際の救急艇導入は検討する時期に来ている。今後、島民、市民の意見を聞き、その必要性があれば議会へ示す。



議会と執行部の連携強化を



議員 議長と市長は対等、同格である。議会とうまくいかない、仕事に大きく支障が出るのではないかと。私の40年来の親友である総社市の片岡市長は「議会とよく相談して物事を進めたいと思います。」と言うのが口癖である。

ともに意思決定機関であることから、議会として協力したいが連携強化の意思はあるか。

市長 一緒になって笠岡を盛り上げていきたい。ただ、この一年を振り返ると若干出過ぎた面もあったし、議会との協賛感等は未熟であったと思う。

